

社会貢献活動

資生堂は、社会・地球とともに持続的に発展することを目指しており、当社のサステナビリティ重点領域に関わる活動と、自社の強みをいかして地域の課題を解決する活動で社会に貢献していきます。

社会貢献活動の指針

私たちは、「資生堂倫理行動基準」に沿って、事業をいかして社会・環境課題の解決に努めるとともに、将来にわたって世界中のステークホルダーから支持されるためにそれぞれの地域社会の課題に応える活動に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献します。

「資生堂倫理行動基準」※一部抜粋

社会・地球とともに

社会への貢献

資生堂は、広く社会と双方向のコミュニケーションを充実させ、協働して社会的課題解決に努めます。

私たちは、広く社会との対話に努め、美の力などで人々を元気づけ健やかにする活動、職場や社会におけるジェンダー平等を推進する活動、文化活動、環境活動などに取り組み、グローバル社会からの期待に応えます。

2. 私たちは、事業所などが所在する地域社会との交流を深め、地域に貢献する活動を通じて、企業市民としての責任を果たします。

社会貢献活動の重点領域

資生堂は「資生堂倫理行動基準」および当社のマテリアリティ（重要課題）に沿って、社会貢献活動として対応すべき「社会」や「環境」の重点領域を定めています。なかでも、「社会」領域においては、ビューティーカンパニーとしての使命、および社内の取り組みを通じて蓄積した当社の経験や知見をいかし、「ジェンダー平等」や「美の力によるエンパワーメント」に対応した取り組みを社員参画のもと進めています。また地域社会・災害支援として、事業所が所在する地域を中心に、社員との協働により各地域社会の課題に応える活動に取り組み、企業市民としての責任を果たします。

社会貢献活動の推進体制とガバナンス

社会貢献活動に関する主要オペレーションは、チーフD&Iオフィサーを責任者とし、本社の担当部門（サステナビリティ戦略推進部、D&I戦略推進部、人財本部）が関連部門・ブランド・地域本社などと連携して推進や実績のとりまとめを行っています。また、海外の地域本社ではサステナビリティ推進責任者が、チームを率いて本社と連携し、各国・地域の社会貢献活動の推進・管理を行っています。

社会貢献活動を含むサステナビリティ推進体制は「サステナビリティ推進体制」をご覧ください。

社会貢献活動の実績

実績は「社会データ」をご覧ください。

地域社会・災害支援・各種支援活動の実績は以下の各リンク先をご覧ください。

社員による社会貢献活動

資生堂は、美の力を通じて、人々が幸福を実感できる”サステナブルな社会の実現を目指し、社員一人ひとりが社会および環境問題に対して意識を高め、その解決に向けて、みずから考え、行動することを重要と考えています。資生堂ではサステナビリティ戦略に沿って、重要課題である「社会」「環境」の領域で社員が自発的に社会貢献活動に参加できる社内体制を整えています。日本をはじめ欧州や米州、アジアパシフィック、トラベルリテールの地域本社では、社員が平日に取り組む社会貢献活動を業務時間と認めています。

世界で社員による社会貢献の日「資生堂カメラアデー」を実施

2017年より欧州地域本社でスタートし2021年には世界の各地域本社すべてに拡大した、社員による社会貢献活動の日「資生堂カメラアデー」を2022年も欧州、米州、アジアパシフィック地域にて実施しました。

「資生堂カメラアデー」は、勤務時間にボランティアに参加する社員同士の絆を醸成するとともに、地域の団体に市民として関わり、情熱やスキルを共有することで、社会に貢献することを目的としています。2022年はコロナ禍の状況を鑑みながら、屋外を中心とする対面の社会貢献活動も徐々に再開し、世界中で多くの社員がそれぞれの地域社会の課題解決に向けて取り組みました。

欧州地域では、ベルギー、ドイツ、イタリア、スペイン、オランダ、イギリス、フランス、スイスなど各国の社員560人以上が、環境保全活動やジェンダー平等に向けての支援、文化やヘリテージへの啓発活動などに自分たちのスキルや知識を活かし、地域社会に貢献しました。

オフィスがある港エリアの清掃活動や、オフィスの屋上テラスの植物菜園設置、プラスチックのリサイクルや植林・植栽、雑草除去などの活動をはじめ、地域の社会団体が支援する難民や老人ホームの方々を支援する活動や、がんに苦しむ女性や暴力被害女性の心と健康の支援などさまざまな活動を実施しました。

米州地域では、創業150周年の一環として、社員1,300人以上が一丸となって、「私たちの海を守る」をテーマに、各地で社会貢献活動に取り組みました。米州地域の社員が年間を通じて社会貢献活動に参加するプログラム「THE BEAUTY OF HELPING OTHERS」を通じ、20のNPO団体と協働し、30以上の活動を実施しました。

カリフォルニア州、フロリダ州、カナダのトロントでのビーチ清掃や、ニューヨーク、ニュージャージーでのカキ礁の復元と海岸線プロジェクトへの参加、テキサス州ヒューストンとオハイオ州グロブポートでの水



欧州地域の社員ボランティア(オランダ)



小川や公園の清掃に参加する米州地域の社員ボランティア

路・入り江の清掃活動など、各地で地球環境を守る活動に取り組み、地域社会に貢献しました。また、ブラジルの社員は、サンパウロのサンガバビーチのマングローブから人工ゴミを集める活動に取り組みました。

アジアパシフィックおよびトラベルリテール地域本社では、シンガポール、インドネシア、フィリピン、ベトナム、マレーシア、台湾、タイなど各国・地域の社員450人以上が、資生堂カメラアデーの活動に取り組みました。

アジアパシフィックおよびトラベルリテールの地域本社は、2022年も共同で資生堂カメラアデーを実施し、社員230人以上が、恵まれない女性や子どもたちをエンパワーメントする取り組みへの意識啓発と、NGO・NPO団体の活動に寄付するチャリティウォーキングイベントに参加しました。また、インドネシアの社員は、厳しい環境にある若者たちへの技術習得・育成支援を目的としたNPO団体との協働によるチャリティウォーキングイベントに参加しました。社員たちは社会に貢献するだけでなく、健康的な活動を通じ、家族や友人、社員同士の交流を深めました。フィリピンの社員は、医療の最前線で活躍する医療スタッフの方を笑顔にすることを目的に、資生堂の商品を詰め合わせたスペシャルギフトボックスに感謝のメッセージと商品の使い方を添えたプレゼントを用意し、医療関係者の方々へ感謝を込めてお渡ししました。

そのほかにも、ベトナムやマレーシアでは恵まれない子どもたちの教育の改善を目的とした学用品支援、台湾では恵まれない少女や若い女性たちに贈るための資生堂製品をセットしたギフトボックスづくり、タイでは将来を担う若者たちのエンパワーメントを目的とした音楽・演劇活動への参加支援など、幅広い活動を実施しました。

世界で展開する「資生堂カメラファンド」

「資生堂カメラファンド」は資生堂社員および退職した社員の寄付金により、社会課題の解決に取り組むNPOやNGO団体を支援する社会貢献活動です。「資生堂カメラファンド」は、2005年から日本でスタートし、2020年に欧州や米州、アジアパシフィック、トラベルリテールの地域本社にも拡大し、「社会」および「環境」の領域を中心に、女性活躍推進、子どもの教育、環境保全、災害支援など、各地域で必要とされる取り組みを支援しています。

詳細は「社会データ」をご覧ください。



チャリティウォーキングイベントに参加したアジアパシフィック地域の社員ボランティア

日本で展開する「資生堂カメラファンド」2023年度支援団体

領域	団体名		支援内容
環境	WWFジャパン		地球環境を守る持続可能なインドネシアの「認証パーム油」生産農家の育成
社会	全国女性シェルターネット		卑劣なDV被害から母子で逃れて生活する子どもたちへの就学支援
	ジョイセフ		ザンビアのお母さんが安全に出産できる保健環境の整備と出産キットの提供
	セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン		栄養不足が深刻なウガンダ西部の母子の食料確保のための農業と栄養指導
	資生堂子ども財団		施設や里親の元で育ち18歳で巣立つ子どもたちの進学支援
	全国色素性乾皮症（XP）連絡会		難病XPの子どものための紫外線防御用品や医療介護用品の購入とXP啓発
	日本対がん協会		がん患者と家族の支援、無料がん相談、チャリティ活動、がん経験者の支援
文化	アーツ イニシアティブ トウキョウ		障がいや生い立ちなどにより芸術との接点や自由に表現する機会が限られた児童や若者に芸術体験を創出し、アートが持つ力で心の栄養や自己肯定感を育む取り組み

ウクライナへの支援

資生堂はウクライナ留学生の支援を通して、私たちが平和で健全な社会とともにあることを表明し、ウクライナの未来を担う人材を支援しています。これは、私たちの企業使命である「BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD（美の力でよりよい世界をつくること）」に合致することと考えています。

2022年3月から、UNHCR（国連難民高等弁務官事務所）を通じて、スキンケア製品と寄付金を提供し、大阪茨木工場では2名のウクライナ難民を雇用し安心して働ける環境を整備しています。同年6月には、「資生堂チャリティーコンサート“MUSICfor PEACE”（サントリーホール）」※1を主催し、その収益金は難民支援団体の一般財団法人パスウェイズ・ジャパン※2を通じて寄付しました。また、ICU（国際基督教大学）で学ぶ5名のウクライナ留学生には、彼らが学業に集中できるよう生活支援金を提供しています。資生堂グループは、今後も世界中の社員および支援団体などと長期的な支援を継続していきます。

また、緊急支援としてUNHCRを通じて、避難民の支援活動への100万ユーロ（約1億3,000万円）の寄付に加え、社員へ寄付を呼びかけ、集まった寄付金額の同額を当社がマッチング（上乘せ）する人道支援寄付プログラムを実施しました。マッチングによって、合計約6,000万円をUNHCRへ寄付しました。

※1：協賛:サントリーホールディングス株式会社、セイコーホールディングス株式会社、大和証券グループ、東京海上日動火災保険株式会社。協力:株式会社電通

※2：教育を通じて難民の新しい道を拓くことを目指し、日本への難民受け入れ事業を行っている団体

災害支援活動

会社は社会とともにあり、社会の中で生かされています。社会が困難な状況にあるときに、会社は社会の一員としての役割を果たしたいというのが、私たちの思いです。未曾有の被害を被った地域の復興は長い道のりになります。私たちは、人・もの・情報・技術・文化など当社の資源を生かして、被災された方々が自立されることにお役に立ちできるよう、支援してまいります。

災害義援金

資生堂グループ従業員および退職した社友からの寄付金を、世界中で発生した自然災害に対する災害義援金として被災地にお届けしています。社員と社友一人ひとりの気持ちが大きな力となっています。

詳細は「社会データ」をご覧ください。

東日本大震災に対する取り組み

「椿」が結ぶ復興支援活動

資生堂にとって「椿」はもともとゆかりが深く、岩手県の気仙地区、大船渡市・陸前高田市の市の花も「椿」です。震災以降、椿の花のご縁から資生堂がお役に立てることを街の人々と話し合ってきました。その過程で、気仙地区では数10年前まで各家庭で椿の実から油を搾り、食用や髪のお手入れなどに使っていたことから、椿を街の新しい産業にしたいという希望や、大船渡市では震災前から椿を観光資源として扱ってきた基盤があることもわかりました。街が大切にしてきた「椿」が新しい産業となり、観光資源としても活用できるよう、資生堂は2012年以降毎年、大船渡市で椿の植樹活動を行ってきました。大震災から10年となる2021年までに、資生堂提供分と長崎県新上五島町提供分を合わせ、合計889本の椿の苗木と成木を大船渡市の人々とともに植樹しました。



復興支援マルシェの社内開催

資生堂がサポートしている三陸地区の地産品を集めて社内で販売する「復興支援マルシェ」を2011年から2020年まで開催しました。

<マルシェの目的>

現地	気仙地区の認知向上 新たな販路の開拓
社員	復興支援活動を知ってもらい、共感してもらう機会 復興支援で何かお役に立ちたい！社員の気持ちを叶える機会



2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年資生堂汐留本社で開催してきた対面販売の「復興支援マルシェ」を見直し、本社以外の全国の社員も参加できるようオンラインでの「バーチャルマルシェ」を実施しました。オンラインならではの被災地のさまざまな地産品を取り揃え、多くの社員が賛同し参加しました。新しい支援の形として水産業の方々も加わり、社員もそのご家族もみんなが笑顔になれたバーチャルマルシェとなりました。



これまでの主な取り組み

1. 産業化に向けた取り組み

● 椿で新たなまちづくり。今年も「椿の植樹会」 2017年5月25日、26日開催

2012年から6年目を迎える2017年は、例年の苗木の植樹と、新しいまちのシンボルツリーとしての植樹を行い、活気づく大船渡のまちづくりを応援しました。資生堂からは社員15名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会の皆様とともに植樹を行いました。

(1) 椿の苗木の植樹会

2017年5月25日（木）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、大船渡市福祉の里大洋会敷地内において「椿の植樹会」を実施し、32本の苗木を植樹しました。「資生堂リラクシングナイトミスト」の売上の一部と資生堂アメニティグッズ株式会社が通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられました。



記念植樹（右から2人目は戸田公明 大船渡市長）



苗木を植樹する市の職員と 資生堂社員



植樹会の参加者

(2) 椿の成木の記念植樹

2017年5月26日（金）、商業施設「キャッセン モール&パティオ」内に、新しいまちのシンボルツリーとして9本の成木を植樹し、まちづくり会社キャッセン大船渡(株)との共同により記念セレモニーを行いました。



記念プレートの除幕式



幹巻きをする社員



記念セレモニーのようす

●復興への想いを込めて、椿の植樹会を開催 2016年6月11日開催

2016年6月11日（土）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、岩手県立福祉の里センターで「椿の植樹会」を開催しました。資生堂からは20名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会の皆さまと共に植樹を行いました。

(1) 椿の成木の植樹会

椿油の原料となる実の収穫を早期に行えるよう、椿の成木20本を植樹しました。昨年に続き、今年も日本ツバキ協会の方に樹齢30年程の成木を寄贈いただきました。

(2) 椿の苗木の植樹会

大きく、たくましく育ててほしいという想いを込めて、大船渡市長 戸田公明様、当社代表取締役執行役員副社長 岩井恒彦、大洋会理事長 木川田 典彌様と日本ツバキ協会 仲村清彦様による記念植樹を行いました。

今回の苗木の植樹には、「資生堂 リラクシングナイトミスト」の売上の一部と資生堂アメニティグッズ株式会社が通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられました。



戸田公明 大船渡市長（右）と副社長 岩井恒彦（左）による記念植樹



急な斜面に苗木を植樹



植樹に参加した資生堂社員

●産業化に向けた椿の植樹会を開催 2015年6月12日開催

2015年6月12日（金）、資生堂と社会福祉法人大洋会が共催し、岩手県立福祉の里センターで2通りの「椿の植樹会」を開催しました。

資生堂から16名が参加し、社会福祉法人大洋会、大船渡市役所、一般社団法人日本ツバキ協会、RCF復興支援チームの皆さまと共に植樹を行いました。

(1) 椿の成木の植樹会

椿油の原料となる実の収穫を早期に行えるよう、樹齢30年程度の椿の成木30本を植樹しました。植樹した成木は、この活動に賛同いただいた、日本ツバキ協会会員により寄贈されたものです。

(2) 椿の苗木の植樹会

椿の苗木40本を植樹しました。

この苗木の植樹には、2014年当社が発売した「資生堂 リラクシングナイトミスト」の売上の一部と当社の関連会社である資生堂アメニティグッズ株式会社が通販カタログで大船渡の特産品を販売した売上の一部が役立てられています。



苗木に鹿除けを設置している様子



成木の植樹の様子



植樹に参加した資生堂社員

2. 気仙地区の「椿」の認知向上に向けた取り組み

●大船渡市の「三面椿」をモチーフにしたおやすみ前のフレグランスを発売 2014年10月1日発売

香りは気持ちを和らげたり、リラックス感をもたらします。被災された方に、よい香りで心地よい眠りをお届けしたい・・・そのような思いから、当社のアロマコロジー研究を活かした商品開発に取り組みました。大船渡市末崎町「中森 熊野神社」にある樹齢1400年の日本最古のヤブツバキ「三面椿」の香り成分を配合し、性別・年代を問わず、安らぎを感じていただける新しい香りを開発しました。大船渡の方々にもご協力いただき、就寝前にボディーだけでなく、空間や寝具にも使用できるフレグランスウォーター「資生堂 リラクシングナイトミスト 椿の夢」を開発しました。

当商品は2014年10月1日（水）に資生堂 Webサイト「ワタシプラス」にて限定発売し（2017年1月に再販売）、2016年3月9日（水）に（株）三越伊勢丹の4店舗※にて数量限定で発売しました。売上げの一部は、「椿の里 大船渡」の街づくりに活かされました。

※ 伊勢丹新宿店、銀座三越、日本橋三越本店、仙台三越



資生堂 リラクシングナイトミスト 100ml

●椿が結ぶ復興支援 資生堂パーラー「気仙椿ドレッシング」を発売 2014年11月10日発売

資生堂パーラーは、椿を軸にした街の復興をお手伝いする資生堂の復興支援活動に参画し、気仙地区の椿の実を原料とした椿油“気仙椿”を使ったドレッシングを11月10日に数量限定で発売しました※。

この椿油“気仙椿”は、原料となる椿の実からとれる種を焙煎し、搾油機を使い、人の手で丁寧に搾り作られています。焙煎した種を使うからこそ、香りが豊かで黄金色のきれいな椿油になるのが特長です。

※「気仙椿ドレッシング」は、資生堂パーラー 銀座本店ショップ、AEONグループ各社店舗のお歳暮カタログ、そして、11月17日からは特別限定として地元の「らら・いわて」で販売。

単品での取り扱いは銀座本店ショップ、「らら・いわて」のみ各1,080円（税込）



気仙椿ドレッシング

3本セット 3,240円（税込）

オニオン <200ml>

2本・粒マスタード <200ml> 1本

●「椿の夢 フェスティバル」の開催 2014年10月4日開催

10月4日（土）、岩手県大船渡市のリアスホールにて、「椿を軸とした街づくり」を支援する活動の一環として、当社が主催する『椿の夢 フェスティバル』を開催しました。

このフェスティバルは、産業資源・観光資源としての「椿」の可能性を、地元の若い世代を中心に体感していただくことを目的に行いました。

イベントは『五感で椿を体感する』をテーマに構成し、香りの効用や発売直後の「資生堂 リラクシングナイトミスト」の効果を解説する「香りセミナー」、椿のデザインをモチーフとした当社の商品・ポスターなどを展示した「ミニギャラリー」、椿油を使用したお料理やお菓子を紹介する「椿の食体験」などを行いました。

「椿の食体験」には、大船渡東高等学校の生徒が参加し、椿油を使った手作りのお菓子を紹介しました。



「香りセミナー」の様子



「気仙椿ドレッシング」を使った料理 ス
ビエディーニのおふるまい



大船渡東高等学校の生徒さんによる、椿油
を使った料理・菓子のおふるまい



大船渡東高等学校の生徒さんによる、椿油
を使った料理・菓子のおふるまい

また、復興を担う地元の若者たちの当フェスティバルへの興味喚起を目的に、高校生を対象とした「ヘア&スキンケアセミナー」を男女別に開催し、ヘアアレンジの方法やきれいな素肌作りのポイントをご紹介します。

イベントの終盤には、事前公募により選出した地元の若者がモデルとなり、当社のヘア&メイクアップアーティストによる「ヘア&メイクアップショー」を開催。

渋谷109で若者に人気のブランド「CECIL McBEE」「SLY」にコスチュームで協力をしていただき、それぞれの「なりたい私」の実現を行いました。



高校生を対象に男女別に開催した「ヘア&
スキンケアセミナー」



高校生を対象に男女別に開催した「ヘア&
スキンケアセミナー」



「ヘア&メイクアップショー」の様子

●「椿の恵まつり」の開催 2013年11月23日開催

震災後商品化された食用の椿油の認知を高め、椿の産業化に向けた後押しとなるよう、椿の「食文化」に着目、椿の食体験を通じて、椿の可能性を地元の皆さまとともに体感する機会をつくりたいと考え、「椿の恵まつり」を企画しました。

このイベントでは、椿油を使った新しいお食事やお菓子のメニューを地元のレストランや和洋菓子店につくっていただき、メニューコンテストを行いました。資生堂からは資生堂パーラー銀座本店の調理長が参加し、資生堂パーラーの看板メニューである「ミートクロケット」を椿油で揚げたものを特別メニューとして提供しました。

そして地元で昔から椿油を使ってつくられていた「けんちん汁」を地元の女性につくっていただき会場で提供し、椿油を知らない子どもたちへの伝承をあわせて行いました。



メニューコンテスト



椿の搾油体験



食体験会場



食体験会場受付



大船渡保育園 園児による郷土芸能（鹿踊り）

また、別会場（大船渡の椿の観光地：碁石地区）では、産業化を行う上で重要な椿の実の収穫を体験するイベントも行いました。大船渡の観光地である碁石地区の皆さまと一緒にいき、54kgの実を収穫しました。収穫した実は、産業化に向けて実の収穫が課題となっている陸前高田の製油所、社会福祉法人 大洋会 青松館に寄贈しました。



実の収穫体験



収穫した椿の実

また、地元の皆さまからご要望いただいたお化粧品教室も開催させていただきました。お花だけではなく「椿」を地元の皆さまとともに大いに感じた一日となりました。



美容セミナーの様子



椿の恵まつりに参加したスタッフ

3. 次世代とともに椿を育てる取り組み

●大船渡市立 日頃市中学校の活動

岩手県大船渡市立日頃市（ひころいち）中学校では、市の花「椿」の理解を深めるべく「椿の学習プログラム」を全校で実施しています。資生堂では日頃市中学校の要請を受け、未来の街づくりの主役となる生徒に「椿の可能性」を体感してもらうため協力しています。

●資生堂パーラーとの調理実習 2017年8月28日開催

8月28日(月)、生徒たちは資生堂パーラー指導の特製オムライスづくりや大船渡市の椿油で揚げたクロケットの食べ比べに挑戦しました。

まず、パーラーの総調理長が実演しながらオムライスの作り方を指導。チキンライスを卵で優しく包んで作るポイントを生徒に伝授しました。生徒たちはおいしそうなおムライスが出来上がる様子を真剣に見つめていました。

生徒による実習では、最初は緊張気味でぎこちない手つきでしたが次第に笑顔が多くなり、チキンライスを卵で包む難しい作業も無事成功、見事なおムライスが完成しました。

実食では、自分たちでも作れるんだとの自信と共にオムライスのやさしい味に笑顔があふれました。また、椿油とサラダ油でそれぞれ揚げたクロケットの食べ比べも行われ、生徒たちは地元の椿油で揚げたクロケットの味や香りを楽しみました。



パーラー総調理長の見事な手さばきを真剣にみつめる生徒たち



生徒自身による調理



自分たちで作ったオムライスを楽しく実食

●大船渡市立 赤崎中学校の活動

岩手県大船渡市立赤崎中学校との出会いは2012年9月11日。

津波で被災した赤崎中学校の仮設校舎前に、資生堂の社員が赤崎中学校の全校生徒と一緒に3年生の生徒数の椿の苗木の植樹を行いました。

苗木の横には「椿の里 大船渡」「ふるさとの復興」をテーマに詠んだ俳句のプレートを立てました。この活動がきっかけとなり、赤崎中学校の生徒さんと植樹した「椿」を共に育てる活動を行なってきました。

植樹した椿がやがて大船渡の新しい産業の芽となる可能性があることをお伝えしながら、生徒さんの間で代々受け継ぎ、大切に育ててきました。

●俳句集 2012年度・2013年度・2014年度・2015年度・2016年度

俳句紹介

赤崎中学校の3年生の生徒さんが詠んでくれた俳句を紹介します。

2012年度

流された 浜小屋の跡 ヤブツバキ
赤と白 咲いてまもない その命

2013年度

希望のせ 未来の椿 咲き誇る
赤椿 ぱっと咲いて ひらり散る

2014年度

紅く咲く 愛情こもった 椿の木
椿咲く 我が故郷に 夢をのせ

2015年度

海眺め 大船渡の花 椿咲く
赤椿 見守るうちに 花咲かす

2016年度

北椿 郷里の地にて 咲きほこる
青い海 赤いツバキと 澄んだ空

●椿を育てる活動（WEB会議・椿日記）

WEB会議の開催

2013年6月より、整備安全委員の生徒さんとWEB会議を始めました。この「椿ミーティング」では、生徒さんが椿のケアをしている中で気づいたことや、疑問に思ったことを持ち寄り情報共有しています。

椿の育成に必要なことを一緒に考え、専門家からのアドバイスをいただきながら、育成のプログラムを作成しました。

赤崎中学校「椿日記」

2013年度より赤崎中学校では、椿を育てる係として「整備安全委員」の生徒さんが担当することに決まりました。

そして顧問の高橋隆先生から椿のレポートが届くようになりました。

私たちはこれを「椿日記」として記録に残すことにしました。

●搾油体験会 2015年11月17日開催

「椿を育て」⇒「実を収穫し」⇒「実から油を搾る」

産業化に向けて重要なこの一連の活動を生徒さんと共に体験することを通じて、より一層「椿」に関心を深めていただき、「椿」で産業化を目指す大船渡市の後押しとなることを目的に椿の実から油を搾る体験会を開催しました。

当日は、30名ほどの生徒が参加し、大船渡の伝統的な搾油機による搾油を見学した後、実際に家庭用の搾油機で搾ってみる体験を行いました。搾油後には、椿油を活用した事例を知ってもらうために資生堂パーラー「気仙椿ドレッシング」の試食会も行いました。

参加した中学生たちは、「椿の実にさわって搾ったりするのが初めてだったので、とてもおもしろかったです」「実際に搾ってみると、思ったより力があるし、ほんの少しの油しかでてこないとわかりました」「椿オイルが、いろいろなものに使われているというのを、初めて知りました」と楽しそうに語ってくれました。



家庭用の搾油機による搾油体験



「気仙椿ドレッシング」の試食会の様子



参加した生徒さんと記念撮影

<赤崎中学校の先生からのお手紙>

この度は、本校において椿の搾油体験会を実施していただきありがとうございました。

資生堂とは「椿」の縁で交流してはや4年の月日が流れ、震災の記憶も記録も薄らいでいく昨今において、震災後に植えた椿がすくすく育つように、WEB会議や俳句集の贈呈式など以前と変わらず、いやそれ以上に温かく大船渡・赤崎中を見守っていただいた事を感謝しております。

今回の搾油体験に参加した生徒は、本当に楽しそうに活動しました。

そして、大船渡の誇りであった「椿」を再発見する機会ともなりました。

今私たちはいつも支援をされる側にいますが、この子ども達がいつか支援する側、大きくいうと世界貢献する側になってくれることを期待しております。

非常時の美容について

災害非常時におけるお手入れの方法や、化粧品の効果的な使用方法について、幅広い情報を発信しています。

新型コロナウイルス感染症に関連した資生堂の活動



新型コロナウイルス感染症への対応は、人類が協力して取り組むべき課題です。

毎日の暮らしの中での感染対策、医療に従事なさっている方々へのサポート。

困難に見舞われた世界に対し、私たちができることはなにか。

資生堂では、グループ各社それぞれに思いをめぐらせ、知見、技術、設備を生かした対策を検討し、さまざまな活動を続けています。

各国・地域での活動

2021年

日本

- 「資生堂 Hand in Hand Project」 スタート



手指消毒やハンドケアについて多くの方に伝え、取引先企業の方々やお客さまと共に感染予防に取り組むことで医療従事者の力になることを目指しています。

本プロジェクトの期間中、当社が販売するハンドソープ・消毒液・ハンドクリームの利益全額を医療現場のサポートのために寄付します。

本プロジェクトは、2021年6月30日で終了しました。

2021年7月26日に総額503,771,457円を公益社団法人 日本看護協会に寄付しました。

アジア・パシフィック

- SHISEIDOアルティミューンを寄付



資生堂アジアパシフィック地域本社、資生堂トラベルリテール、資生堂シンガポールは「SG Cares Giving Week」に賛同し、13の地域医療施設、4,500人以上の医療関係者にSHISEIDOアルティミューンを寄付しました。

- 売り上げの一部を寄付



CAREフィリピンに、売り上げの一部を寄付しました。

欧州

- 一時的嗅覚障害から回復するための嗅覚リハビリテーションモジュールを開発



資生堂EMEA は、一時的な嗅覚障害から回復するための新しい嗅覚リハビリテーションモジュールを開発し、コロナウイルス感染症の影響を受けた従業員を支援しました。

2020年

日本

■ 国内4工場での手指消毒液（指定医薬部外品）の生産



独自に手荒れに配慮した手指消毒液（指定医薬部外品）を新たに開発し、4月より国内4工場で生産を開始。毎月合計20万本（約10万リットル）の消毒液を、医療機関などを中心に提供しています。

※ 厚生労働省から承認を受けた手指消毒液の承認情報（処方）は、他の企業にも広く開示しています。

■ 日本医師会へ手指消毒液を寄付



国内の工場生産した手指消毒液（指定医薬部外品）を、日本医師会へ20万本寄付しました。消毒液は日本医師会を通じ、各医療現場へ届けていただきます。

■ 医療従事者へスキンケア化粧品を無償で提供



医療従事者の方々のストレス緩和になることを願い、敬意と感謝の意を込めて、日本医師会を通じてスキンケア化粧品を無償で提供しました。

■ グローバルプレステージブランド「SHISEIDO」、国際連合のコンテンツ作成協力に参画



新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策として、接触することなく、人から人へやさしさをつなぎ、共有することのできるデジタルコンテンツを制作し配信しています。

■ 「いまだから大切にしたい、毎日のこと。」公開



自分をいたわり、今日とこれからをすこやかに過ごすための美容や健康、暮らしにまつわる情報をWEBサイトで提供しています。

アジア・パシフィック

■ 爱心接力Relay of Loveプロジェクト



新型コロナウイルス感染症でお困りの方への寄付や、医療関係者への支援を実施。今後は化粧品のお力でお客様を元気づけるため、中国7都市でチャリティイベントを実施していきます。

■ インドネシアでマスク、商品を寄付



インドネシアでマスク90,000枚をNPOへ寄付、また「専科パーフェクトアクアリッチマスク」3,000個を医療機関へ寄付しました。

■ 韓国で1億ウォンを寄付



韓国で1億ウォンを、感染者支援基金へ寄付しました。

■ シンガポールでスキンケア商品を医療機関へ寄付



シンガポールで200セットのスキンケア商品を医療機関へ寄付しました。

■ 台湾でスキンケアセットを医療機関へ寄付



台湾大学病院の最前線で働く医療従事者に、スキンケア・ヘアケア商品を寄付しました。

■ タイでフェイスシールドを寄付



タイで3,000セットのフェイスシールドを医療機関へ寄付しました。

米州

■ アメリカの工場で消毒液を製造



医療機関での消毒液不足を支援するため、アメリカ・ニュージャージーにあるイーストウィンザー工場
で消毒液を製造し、75以上の病院、NPO等の医療機関へ12万本以上を寄付しました。

■ 「Drunk Elephant」が病院へ商品を寄付



「Drunk Elephant」は、新型コロナウイルス感染症患者に対応するアメリカの50の医療機関の医療従事者4300人以上に、スキンケア商品をセットにしたケア・パッケージを寄付しました。

■ 「NARS」が病院へ商品を寄付



「NARS」はDonate Beautyとの協働により、アメリカの44の病院の最前線でコロナウイルスと闘う6000人の医療従事者に、マスクなどの防具で荒れた肌を癒してもらえるよう、スキンケアやリップバームを含むケアパッケージを寄付しました。

欧州

■ フランスの工場で消毒液35万本以上製造



病院および高齢者施設における消毒液不足を解消するために、フランスのコスメティック・バレーにある2工場で消毒液を37万5,000本以上製造しました。

■ 100万ユーロを赤十字に寄付

100万ユーロを、分割してフランス、イタリア、スペイン、ドイツ、イギリスの赤十字社に寄付しました。

SHISEIDO

子どものための取り組み

資生堂では子どもたちがさまざまな体験を積み、正しい知識を学ぶことができる活動を実施しています。

化粧品を使用する時期の低年齢化に伴い、自己流の使い方によって肌荒れなどを起こす子どもが増えています。資生堂では、子どもたちが、自分自身で健やかな肌を守れるようになるために、紫外線対策や洗顔方法などの美容情報をわかりやすく伝えています。



資生堂 子どもセミナー

小学生対象

●資生堂 子どもセミナー

資生堂 子どもセミナーは、肌に変化する思春期直前の小学生の児童に、「肌」や「清潔」についての情報や、正しいお手入れ法を実習を交えた内容で伝えています。

「肌を大切にする」「肌を清潔にする」情報や、正しいお手入れ法を知ることによってニキビや肌荒れになったときに子どもが悩まず、自信をもって自分で対処できるようになることを目的としています。資生堂 子どもセミナーは2009年に始まり、これまで約11,900名が参加しました。

実績は「社会データ」をご覧ください。



【2つのセミナー】

ウェブサイト

「キッズのためのキレイクラブ」では子どもの生活を豊かにする美容情報を発信しています。



●資生堂マイクレヨン プロジェクト

「資生堂マイクレヨン プロジェクト」では、「自分らしさ」や「個性」について学ぶことができる出前授業を行なっています。

子どもたちは「肌の色」をテーマに、特別に作られたさまざまな色の肌色クレヨンの中から、自分の肌の色のクレヨンを見つけます。そのクレヨンを使って自分の顔を描き、自分だけの特別な肌色があることに気づかせるプログラムです。

肌の色の違いから、人それぞれの考え方や価値観の違いにも議論を発展させ、その違いを認め合うことが大切であることを伝えています。



保健授業をサポートする教材

保健授業をサポートする映像教材（DVD）・児童配付用リーフレットを無償で提供しています。

「資生堂 子どもセミナー」「無償教材」のお申し込みは、「キッズのためのキレイクラブ」内の専用申し込みフォームからお願いいたします。

お問い合わせは、メールにてお願いいたします。